

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本人特有の※ノイローゼと言われるものに①視線恐怖がある。対人恐怖の一種で、②対人関係に支障をきたすほどに人の視線が気になってしょうがないという症状に苦しめられる病理のことだ。

人の視線が気になってしょうがない。視線を合わさなければと思うのに、どうしても相手の目を見ることができない。それが視線恐怖の典型だ。相手の目をまともに見ることができないため、おかしなヤツだと思われるんじゃないかと不安になる。そんな不安な胸の内を見透かされるんじゃないかと気になり、人づきあいが苦痛になる。

人の視線が気になるといよりも、自分の視線が気になるというタイプの視線恐怖もある。

僕が対応したある視線恐怖の人は、人と話しているときに突然自分の目つきが気になってくるという。自分の目つきが悪くなっているような気がする。そうなるとうりになってしょうがない。相手に悪い印象を与えたらまずいと思うと気持ちが落ち着かず、慌ててトイレに駆け込み、鏡で自分の目つきを確認する。こんなことが繰り返されるため、人と会うのが苦痛でしようがないという。

どちらのタイプであれ、人を前にしたときの緊張と不安が強いあまり、対人場面を避けるようになる。

(中 略)

③ 日本人は自己主張が苦手だと言われる。※グローバル化の時代だし、もっと自己主張ができるようにならないといけないのだと言う人もいる。でも、日本人が自己主張が苦手なのは理

由がある。そして、それはけつして④悪いことではない。

A、アメリカ人は堂々と自己主張ができるのに、僕たち日本人はなぜうまく自己主張ができないのか。

それは、そもそも日本人とアメリカ人では自己のあり方が違っていて、コミュニケーションの法則がまったく違っているからだ。

アメリカ人にとって、コミュニケーションの最も重要な役割は、相手を説得し、自分の意見を通すことだ。お互いにそういうつもりでコミュニケーションをするため、遠慮のない自己主張がぶつかり合う。お互いの意見がぶつかり合うのは日常茶飯事なため、まったく気にならない。

B、日本人にとって、コミュニケーションの最も重要な役割は何だろう。相手を説得して自分の意見を通すことだろうか。そうではないだろう。僕たちは、自分の意見を通そうというより前に、相手はどうしたいんだろう、どんな考えなんだろうと、相手の意向を気にする。そして、できることなら相手の期待を裏切らないような方向に話をまとめたいと思う。意見が対立するようなことはできるだけ避けたい。そうでないと気まずい。

C、僕たち日本人にとっては、コミュニケーションの最も重要な役割は、お互いの気持ちを結びつけ、良好な場の雰囲気醸し出すことなのだ。強烈な自己主張によって相手を説き伏せることではない。

だから自己主張の※スキルを磨かずに育つことになる。自己主張が苦手なのは当然なのだ。その代わりに相手の気持ちを察する共感性を磨いて育つため、相手の意向や気持ちを汲み取ることができるといえる。

相手の意向を汲み取って動くというのは、僕たち日本人の行動原理といってもいい。コミュニケーションの場面だけではな

問4 ———線③「日本人は自己主張が苦手」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自己主張で相手を説き伏せるのではなく、良好な場の雰囲気を出すことに重きを置くために、自己主張のスキルを磨かずに育ったから。

イ アメリカ人は堂々と自己主張できるが、日本人は自己主張のスキルがなく、コミュニケーションの役割がうまく果たせていないから。

ウ 相手の意見を聞き入れる余裕がなく、周囲の雰囲気に合わせてすることも面倒なので、相手を説得し自分の意見を通したいから。

エ 言いたいことを発することで、相手に不快な思いをさせるのではないかと不安になるため、他の誰かが意見するのを待つ習慣が身についているから。

問5 ———線④「悪いことではない」とありますが、日本人の良さがわかるところを、文中より四十五字以内でぬき出し、はじめの五字で答えなさい。

問6 ———線⑤「日本的な心のあり方」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 初めて会った人にも心をひらき、壁を作らずにもてなそうとすること。

イ 自己主張は苦手だが、相手が納得するまで諦めずに努力して説明すること。

ウ 自分一人では意見できないが、同調してくれる存在がいれば主張できること。

エ 意見の対立を避け、相手の気持ちや意向に沿うような行動を心がけること。

問7 ———線⑥「欧米的な価値観」とありますが、どのような考え方ですか。ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手と対話するためには、自主性や自分の意見を必要とする考え方。

イ 相手の考えや思いを汲み取って、期待に応えるために力をつくす考え方。

ウ 相手の意向や期待よりも、自分の意見を通すことが重要だとする考え方。

エ 誰かのためよりも、ひたすら自分のために頑張るという考え方。

問 8

——線⑦「自己のあり方が違う」とありますが、欧米人と日本人の「自己のあり方」を説明した次の文の **X** ・ **Y** にあてはまることばを、文中のことばを使ってそれぞれ二十字以内で答えなさい。

欧米人は	X	存在なのに対し、
日本人は	Y	存在である。

問 9

——線⑧「遠慮のない自己主張は禁物だ」とありますが、**I** ・ **II** にあてはまることばを文中からそれぞれ三字以内でぬき出しなさい。

問 10

——線⑧「遠慮のない自己主張は禁物だ」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が正しいと思うことだけを述べるようになると、間違った意見だった場合に恥をかいしてしまうから。
- イ 自分の言いたいことを述べるだけでなく、言いたくないことまでも伝えてしまうから。
- ウ 自分の言いたいことを好きなように述べてしまうと、相手との関係が崩れてしまうから。
- エ 自分の意見が周囲に与える影響を考えず、まわりの視線を気にしなくなってしまうから。

問 11

本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 日本人は自分の意向を主張する際に、まわりの意見や要求を汲み取る必要がある。
- イ グローバル化の時代だからといって、自己主張できるようになる必要はない。
- ウ 人の目を気にしてしまうのは、親しい人とのコミュニケーション不足のせいである。
- エ 日本と欧米での自己観が違っているため、コミュニケーションの法則が異なる。
- オ 意見するというのが当たり前の欧米人は、幼い頃から主体的に学ぶ姿勢を鍛えている。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一学期の最後の日、大変なことが起こった。

大変なこと、というのははちよつとおおげさな言いかたかもしれない。実際には、成績が少しわるかっただけのことなのだから。

問題は、そのことについて、わたしとミドリさんの受けた印象がまったく違ったところにある。ありがちな見解の相違。※ジェネレーションギャップ？ そう考えると、むしろわたしというよりもミドリさんにとって大変なことが起きた、とも言える。

ミドリさんというのは、わたしの義理の母親だ。

いわゆる教育ママというわけではないけれど、極度に心配性で過保護な、かわいそうなミドリさん。「ままはは」という響きがまったく似合わない、おだやかで優しいひとだ。今年、確か三十八になる。ぱつと目立つタイプの美人ではないけれど、品のいい顔立ちと、つややかな黒い髪（かみ）の持ち主だ。

わたしたちはとても仲がいい。血がなががついていないから、というだけの理由でミドリさんとわたしの①仲を疑（うたが）むひと（たとえば父方の祖母）を、わたしは心の底から軽蔑（けいべつ）している。

今、ミドリさんは深刻そうな表情でわたしの持ち帰った成績表をながめている。いくらじつくり見ている、そこに並んでいる数字は変わらないのに。

「そんなに気にしなくていいと思うよ？」

場を和ませるために明るく言ってみただけれど、ミドリさんは重々しく首をふる。

「優子ちゃん、そこに座（すわ）ってちょうだい」

わたしは②あきらめて、おとなしくミドリさんの向かいの席

に腰（こし）かけた。③外はこれでもかというくらい晴れていて、部屋の中は明るい。みんなみんな、と能天気なセミの声が窓の外から聞こえる。

「これじゃわたし、聡子（さとこ）さんに申し訳（わけ）がたたないわ」

そうくると思っていたので全然驚（おどろ）かなかったけれど、ミドリさんの沈痛（しんづう）な表情はいつもわたしの気持ち（きもち）を暗くさせる。

小さい頃からそうだった。わたしが何か困ったことをしでかすと、ミドリさんはわたしの死んだ母親の名前（なまえ）を持ち出した。

正直に言ってしまうと、聡子（さとこ）という固有名詞（こ有名詞）そのものは、ちつともわたしの心を動かさない。

生物学上の母親であり、わたしが三歳（さい）のときに病死（びじき）してしまったそのひとのことを、わたしは何ひとつ覚えていないのだ。

④お母さんと呼ぶより聡子（さとこ）というほうがわたしにはしつくりくるくらいで、そう正直に言う（まこと）と驚（おどろ）かれたり、⑤けげんな顔をされたりする。大人はどうも※感傷（かんじやう）的（てき）になりやすい。

それよりも幼（こ）いわたしを悲（かな）しくさせたのは、聡子（さとこ）さん、と口にするときのミドリさんがあまりにもさびしそうな顔（かほ）をするこどだった。聡子（さとこ）はもういないのに、ミドリさんだけが⑤いつまでもその影（かげ）に縛（ゆわ）られていて、それは子供心（こどもごころ）にも不当（ふたう）なことに思えた。

ミドリさんにそんな苦勞（くろう）をかける原因（げんいん）となったわたしの父親（ちち）は、大手（おおい）の商社（しょうしゃ）に勤（いそ）めるサラリーマンだ。今年の春（はる）から、ロンドン（ロンドン）に単身（たんしん）赴任（しゆにん）している。わたしの高校（こうこう）合格（ごうかく）が決（き）まった直（ただ）後に転勤（てんきん）の話（わたり）が出（で）たので、わたしは断固（だんこ）としてついていくのに反対（はんたい）した。ミドリさんがついていくなら、ひとり暮（く）らしなり苦手（くで）な祖母（そぼろ）の家に住（す）むなりしてでも、絶対に日本（にっぽん）に残（のこ）る、と言（い）い張（は）った。

せつかく希望（きぼう）の高校（こうこう）に入（い）れたのにもつたいないという気持（きもち）

もあつたし、大好きなこの街を離れたくないというこだわりもあつたが、そこまで強硬な態度をとった一番の理由は、父に振り回されたくなかつたからだ。わたしは父親のことがあまり好きではない。というか、全然好きではない。わたしが血のつながりにたいした思い入れを持ってないのは、こんなところにも原因があるのかもしれない。

「聡子さんが死んでから、あの子はすっかり変わっちゃってね」
祖母が言ったことがある。

「でも、男手ひとつであんたを育てるわけにはいかないでしょう？」

だからこのひと(祖母はミドリさんのことを名前で呼ばない。その場にいるときには「このひと」、いないときには「あのひと」と言う)と再婚したんだよ。わたしもできるだけ手伝うとは言つただけどねえ。

わたしはすっかり憤慨した。そんなことを**⑥**ためらいもなく口にする祖母に対して。そしてもちろん、父に対して。ミドリさんもわたしも馬鹿にされていると思つた。当のミドリさんはというと、嫌な顔をするでもなくぼんやりと微笑んでいて、それに腹が立つた。

「おばあちゃんつてさ、なんであんなに無神経なんだろうね？」
祖母の家からの帰り道、ミドリさんにそう言つた。

「そんなこと言っちゃいけません」

珍しく強い調子でしかられて、なんだか**⑥**納得いかなかつた。ミドリさんの**※**心労をとりのぞくべく美和ちゃんが我が家に呼ばれたのは、その一週間後だつた。ミドリさんは意外と行動が早い。

もちろんわたしは、家庭教師をつけるなんて面倒で気が進まなかつた。でも、長い夏休みの間中、ミドリさんに聡子攻撃をかけられ続けるのも嫌だつた。それに、高校に入って早々にこ

の成績では、やはり少しまずいかもしれないと思つた。ミドリさんに影響されたわけではないけれど。

「先生がいらっしゃるから」

その日、ミドリさんはお菓子を買に行き、新しいスリッパをおろし、玄関に花まで飾つた。リビングでテレビを見ていると、ほら優子ちゃんも自分の部屋をかたづけ、と追い払われた。はりきつておるときミドリさんに**⑦**水をさすのは、あまりかしこいことではない。

わたしはおとなしく部屋に避難し、ベッドに寝転んで漫画を読んだ。階下から、「おんおんと掃除機の音が聞こえてくる。

そういえば、この家に人が訪ねてくるなんて何年ぶりだろう。父もミドリさんも家に人を招かないし、わたしの友達が遊びに来ることもめつたになかつた。友達がいなわけではないけれど、小学校も中学も私立の女子校だつたので、近所に住んでいる子がいないのだ。

クラスメイトの中でもわたしの家は特に学校から遠く、電車とバスを乗りついで二時間もかかる。その距離が、高校まで一貫教育のその学校を出て高校受験することに決めた大きな理由だつた。ふんわりとのどかなお嬢さん学校らしい空気を、わたしは決して嫌いではなかつたのだけれど。

九年間一緒に過ごしてきた級友たちとの別れはつらかつた。中学の卒業式では、クラス中の子と一緒に記念写真を撮りまくつた。わたし以外のみんなは、また四月から同じ場所と同じ友達との学校生活が始まるのだから、卒業といつてもものんびりしたものだ。泣いていたのは、わたしと、わたしと特に親しかった何人かの女の子たちだけだつた。それから、もらい泣きして涙ぐんでいるミドリさんも。

「学校が違つても一緒に遊ぼうね」

わたしたちは約束しあい、事実、何度か誘いあわせて遊びに

行った。でもなんとなくお互いに居心地が悪く、そのうちメールのやりとりも疎遠になった。

小学校受験は、祖母の意向だった。さすがにそのときには祖母や父に対して反抗心などなかった幼稚園児のわたしは、言われるままにテストを受けて無事に合格し、みんなにほめられて得意でさえあった。

「聡子さんが喜ぶだろうねえ」

祖母は涙までうかべていた。聡子もその学校の出身なのだ。わたしはそのとき初めて知った。

それにしても、実の娘でもないというのに、なぜ祖母はあんなに聡子の肩を持つのだろう。わたしにはよくわからない。普通、嫁と姑というのはいがみあうものじゃないだろうか？

よくドラマでもやっている。

何気なくそう考えて、

⑦「あぶないあぶない」
つい、声が出た。ドラマでは、義理の母娘だつてよくいがみあっている。

先入観はものごとをややこしくする。わたしは、そういう大人にだけはなりたくない。

(瀧羽麻子 『うさぎパン』)

※(文中のことばの意味)

ジェネレーションギャップ … 年齢による世代間のずれ。

感傷的 … 悲しくしんみりとした気持ちになる様子。

憤慨 … 腹をたてること。

心労 … 気づかいて心がつかれること。

疎遠 … 関係がうすれること。

姑 … 結婚相手の母。

問1

~~~~~線①②③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① かげんな

ア 疑っておこり出しそう

イ 悪いところを注意しそう

ウ 思い通りでなく悲しそう

エ ふしぎで納得がいなそう

② ためらいもなく

ア 怒ることもなく

イ 気づかうことなく

ウ 迷うことなく

エ なにげなく

③ 水をさす

ア がんばっていることに対して否定する

イ 話している内容をうすくする

ウ おこなっていることを注意する

エ うまく進んでいるところにじやまをする

問2 ———線①「仲を疑<sup>うたぐ</sup>る」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲が良さそうに見えるが、実は仲が良くないのではないかと疑うこと。

イ 仲がいいから、本当は血が繋がっているのではないかと疑うこと。

ウ ミドリさんと私の二人で、なにかたくらんでいるのではないかと疑うこと。

エ 外見だけではなく、実は本当に仲がいいのではないかと疑うこと。

問3 ———線②「あきらめて」とありますが、どのようなことを「あきらめ」るのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲が悪くなった関係を仲直りすること。

イ 成績について怒られることをのがれること。

ウ 重たい雰<sup>ふん</sup>囲<sup>い</sup>気<sup>き</sup>の場を少しでも明るくすること。

エ 次のテストでがんばって成績を良くすること。

問4 ———線③「外はこれでもかというくらい晴れていて、部屋の中は明るい。みんなみんな、と能天気なセミの声が窓の外から聞こえる」とありますが、これによりどのような効果がうまれますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外は日差しがあり明るい、私たちがいる部屋の中は日差しも届かず暗く寒い様子が強調されている。

イ 外は晴れていて遊びに行くにはもってこいであるが、私は勉強をしなくてはいけないつらさが強調されている。

ウ 外はセミが鳴くなど解放感にあふれているが、私たちのいるところはせまい部屋であることが強調されている。

エ 外は明るくのんきな様子であるが、それと比べて私たちがいる場の雰<sup>しず</sup>囲<sup>ず</sup>気<sup>き</sup>が暗く沈<sup>しず</sup>んでいることが強調されている。

問5 ———線④「お母さんと呼ぶより聡子というほうがわたしにはしっくりくる」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 聡子に対して母親らしいことをまったく何も記憶していないから。

イ 聡子をミドリさんと同じように名前前で呼ぶことがふさわしいと思っていたから。

ウ 聡子と呼ぶ方が親しみが感じられて母親の思い出があふれてくるから。

エ 聡子をお母さんと呼ぶとミドリさんと区別ができなくなり混乱してしまうから。

問6 ———線⑤「いつまでもその影に縛られている」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 聡子さんよりもすばらしい母親でありたいと思う気持ちが大きくあるということ。

イ 聡子さんが残した子どもをきちんと育てないと申し訳ないという気持ちが強くあるということ。

ウ 聡子さんとの約束があつてその約束を必ず守らなければ裏切ることになってしまうということ。

エ 聡子さんと父方の祖母との二人に対して子どもを育てられることを認めてもらいたいということ。

問7

———線⑥「納得いかなかった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ミドリさんのことを他人のように言う祖母のことを悪く言つてミドリさんの味方になろうとしたが怒られたから。

イ わたしの母親としてがんばっているミドリさんのことを祖母が他人のように言っているから。

ウ 祖母がミドリさんに子育てを手伝うと言っていたのになにも手伝っていないから。

エ ふだん何もしてくれない父がわたしとミドリさんを馬鹿にしていると感じたから。

問8 ———線⑦「つい、声が出た」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いがみあう関係を考えていると、ミドリさんとの関係が悪くなつてしまふと思つたから。

イ 祖母と聡子との仲が良いことを考えると、私とミドリさんの関係がわからなくなつてしまふから。

ウ 思い込みでものごとを考えると、ミドリさんとわたしも仲が悪くなつて当たり前だとなつてしまふから。

エ 成績が少し悪かつたことで怒られているのに、これからずっとミドリさんとの関係が悪くなると心配したから。

問9

線「わたしとミドリさんの受けた印象がまったく違った」とありますが、どのようところが「違った」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」は、成績が少しわるくなったことに対してそれほどおおごに思っていないが、「ミドリさん」は、聡子さんに対して申し訳ないということが大変だと感じているところ。

イ 「わたし」は、成績がわるくなったことで進学に影響が出ると思ったが、「ミドリさん」は、聡子さんのことでもある「わたし」の成績がわるいのを自分の責任だと感じているところ。

ウ 「わたし」は、成績が少しわるくなったぐらいのことではないと思っているが、「ミドリさん」は、成績がわるくなることは「わたし」にとって重大なことと感じているところ。

エ 「わたし」は、「ミドリさん」と仲良く過ごしているつもりでいたのだが、「ミドリさん」は、聡子のことを思っている「わたし」と仲良くしていなければいけないと感じているところ。

問10

文中に描<sup>えが</sup>かれている「わたし」の人物像としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学校を受験して合格した時に家族が喜んでくれたことが忘れられず、高校も受験の道を選んだ。

イ 血のつながった親子という関係にはこだわりがなく、父親や実の母親である聡子のことをしたう様子はない。

ウ 血がつながっていたりつながっていないかかったりすることによって、人間関係を決めつけることを否定している。

エ ミドリさんと祖母の関係がうまくいっていないことを心配し、なんとか仲良くなってもらえようと努力している。

オ 聡子と祖母の関係がよくなかった様子を思い出し、人間関係は先入観で考えるべきではないと感じている。

③ 次の意味を持つ慣用句として、ふさわしいものをあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 悪事をやめ、正しい生活にもどる。
  - ② 経験を重ね、態度や物腰ものごしが、役割にしっくり合う。
  - ③ もうどうにもならないと見こみ、あきらめる。
  - ④ 少しぐらいの努力や援助えんじょでは、効果が上がらない。
  - ⑤ 一方的に決めつけて評価する。
- ア レッテルを貼はる      イ 焼け石に水
- ウ 板につく      エ 足を洗う
- オ さじを投げる

④ 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 大衆エンゲキのとりこになる。
- ② 日照りによるカンガイで収穫量しゅうかくりょうが減った。
- ③ 姉がシュウシヨク活動を始める。
- ④ 着なくなった服をスてる。
- ⑤ オリンピックがカイマクする。
- ⑥ 子どもの不安を除く。
- ⑦ サッカーチームの主将を務める。
- ⑧ 隣と足並みをそろえる。
- ⑨ 至急お電話ください。
- ⑩ 早めの行動が裏目に出た。

これで問題は終わりです。